



往年の女流名ヴァイオリニスト の演奏を聴く(2)

A A F C
分科会資料
2013年6月15日
霜鳥 晃

エリカ・モリーニ～ウィーンのエレガンス～ (2/2)

Erica Morini

1904. 1 ウィーン生まれ。父はイタリア人(ヨアヒム系列のヴァイオリニストで音楽学校を経営), 母は生粋のウィーン子。
7歳まで父にヴァイオリンの手ほどきを受ける。
- 1912 8歳 ウィーン音楽学院のマスタークラスに入学。
- 1916 12歳 アルツール・ニキッシュ指揮、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団と共演し、ウィーン・デビューを飾る。
- 1921 17歳 ニューヨーク メトロポリタン歌劇場でU. S. デビュー
- 1938 34歳 ナチスの迫害から逃れて、アメリカに移住。
- 1976 72歳 引退するまで演奏活動が続ける。
- 1995 91歳 ニューヨークで死去。レパートリーはウィーン古典派からブラームス等のロマン派の作品に限定し、極めて狭いが、堅実なテクニック、暖かい情緒的感応の持ち主として知られる。



フィルクシュニー (p) と

◆シューベルト (1797-1823 31y)

アヴェ・マリア (ウィルヘルム編曲) C D Westminster (MONO) (5:34)

なんとロマンチックな「アヴェ・マリア」だろう。いつもより一段と細やかなヴィブラートに彩られ、じっくりと歌いこまれた旋律は、思いがけぬ激しさで聴く者の胸に迫ってくる。

彼女の感受性の奥深さを見る思いである。(佐藤康則氏ライナーノートより)

(ピアノ) レオン・ポマーズ 録音: 1955 (モリーニ 51歳)

◆モーツァルト (1756—1791 35y)

ヴァイオリン・ソナタ 第41番 変ホ長調 K. 481 M D (FM) (23:25)

1785年29歳の作品。「フィガロの結婚」作曲と同時進行の曲で、全体に美しい抒情性の目立つ作品。

特に第2楽章 Adagio はとりわけ深い精神的内容に貫かれた傑作。

第40、42番と共にモーツァルトの3大ヴァイオリン・ソナタとして親しまれている。

第1楽章 Allegro molto (かなり速く) 変ホ長調 3/4 (7:25)

第2楽章 Adagio (ゆるやかに) 変イ長調 2/2 (8:43)

第3楽章 Allegretto (やや速く) 変ホ長調 2/4 (7:07)

(ピアノ) ルドルフ・フィルクシュニー (1912—1994 82y)

録音: 1961 (モリーニ 57歳)

ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調 K. 219 《トルコ風》 映像(DVD) (29分)

本映像は2000年に米国V A I社 (Video Artists International) から発売されたシカゴ交響楽団の歴史的映像シリーズ7巻目に収録されたVHSをDVDにコピーしたものの。

モリーニの演奏スタイルを知る上で貴重な動画といえる。

尚、彼女の弾くカデンツァ（第 1, 2, 3 楽章）は誰の作か、良く弾かれるヨアヒムではない。

第 1 楽章	Allegro aperto	(スケール豊かな快速)	イ長調	4/4
第 2 楽章	Adagio	(ゆるやかに)	ホ長調	2/4
第 3 楽章	Rondeau: Tempo di Menuetto	(反復再示: メヌエットのテンポで)	イ長調	3/4

指揮: ジョージ・セル 管弦楽: シカゴ交響楽団

録音年月: 1961 年 12 月 10 日 (モリーニ 57 歳 11 カ月)

◆ブラームス (1833-1897 63y)

ヴァイオリン協奏曲 二長調 op. 77 CD (Westminster) (STEREO) (38:17)

1878 年 ブラームス 45 歳 親交の厚かった大ヴァイオリニストのヨーゼフ・ヨアヒムの助言を得ながら作曲。1879 年 1 月 ライプツィヒのゲヴァントハウスで、ヨアヒムのヴァイオリン、ブラームスの指揮で初演される。しかし批判もあり、改訂版を秋に出版。

その後名手レオポルド・アウアーが盛んに取り上げ、名曲としての真価が定着するに至った。曲は中欧の民族音楽風のイディオムが取り入れられ、第 2 楽章はボヘミア民謡を、第 3 楽章はハンガリーのジプシー音楽のリズムが取り入れられている。

尚、モリーニは第 1 楽章のカデンツァにフーゴー・ヘールマン(1844-1935)の作を取り入れている。

ヘールマンはブラームスのピアノ三重奏曲第 2 番初演時の Vn 奏者 (ブラームス p、ミューラー Vc)

* 色々なカデンツァを聞き較べてみましょう: (15 分)

作曲者	演奏者	指揮者	管弦楽
ヨアヒム	D. オイストラフ (1960)	クレンペラー	フランス国立放送局 o
ハイフェッツ	J. ハイフェッツ (1955)	ライナー	シカゴ so
ミルシュテイン	N. ミルシュテイン (1960)	フィストゥラーリ	フィルハーモニア o
クライスラー	R. パティアシュビリ (2011)	デュトワ	N H K so
ブゾーニ	I. ファウスト (2010)	ハーディング	マーラー co
ヘールマン	E. モリーニ (1956)	ロジンスキー	ロイヤル po

ヨアヒムのカデンツァを演奏している著名なヴァイオリニスト:

シゲティ、シェリング、グリユミオ、スターン、ヌヴェー、デ・ヴィート、マルツィ、オークレー、ムター他

第 1 楽章	Allegro non troppo	(ほどほどの速さで)	二長調	(20:54)
第 2 楽章	Adagio	(ゆっくりと)	ハ長調	(9:21)
第 3 楽章	Allegro giocoso, ma non troppo vivace	(速く楽しげに、	二長調	(8:02)

しかし過度の快速にならぬように)

指揮: アルトゥール・ロジンスキー 管弦楽: ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団。

録音: 1956 (モリーニ 52 歳)

その他の モリーニのブラームス ヴァイオリン協奏曲

指揮者	管弦楽	録音場所	録音年	コメント	レーベル
1. セル	フィルハーモニア so	カーネギーホール・ライブ	1952	音悪、楽章毎に拍手	M&A
2. ワルター	N Y P	ライブ	1953	第 1 楽章で弦が切れる*	Archipe

* アクシデント、コンサートマスターの Vn で平然と演奏を続けたという。

[目次へ戻る](#)

以上